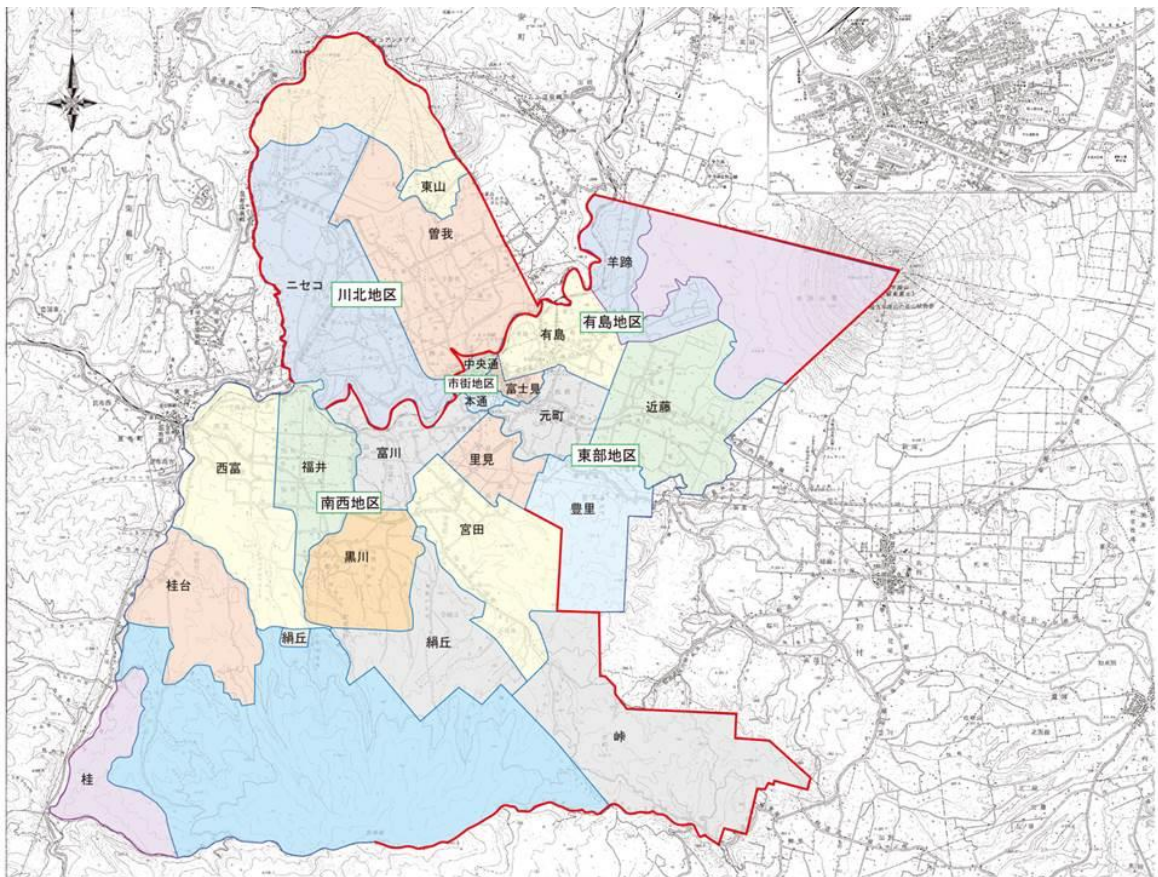
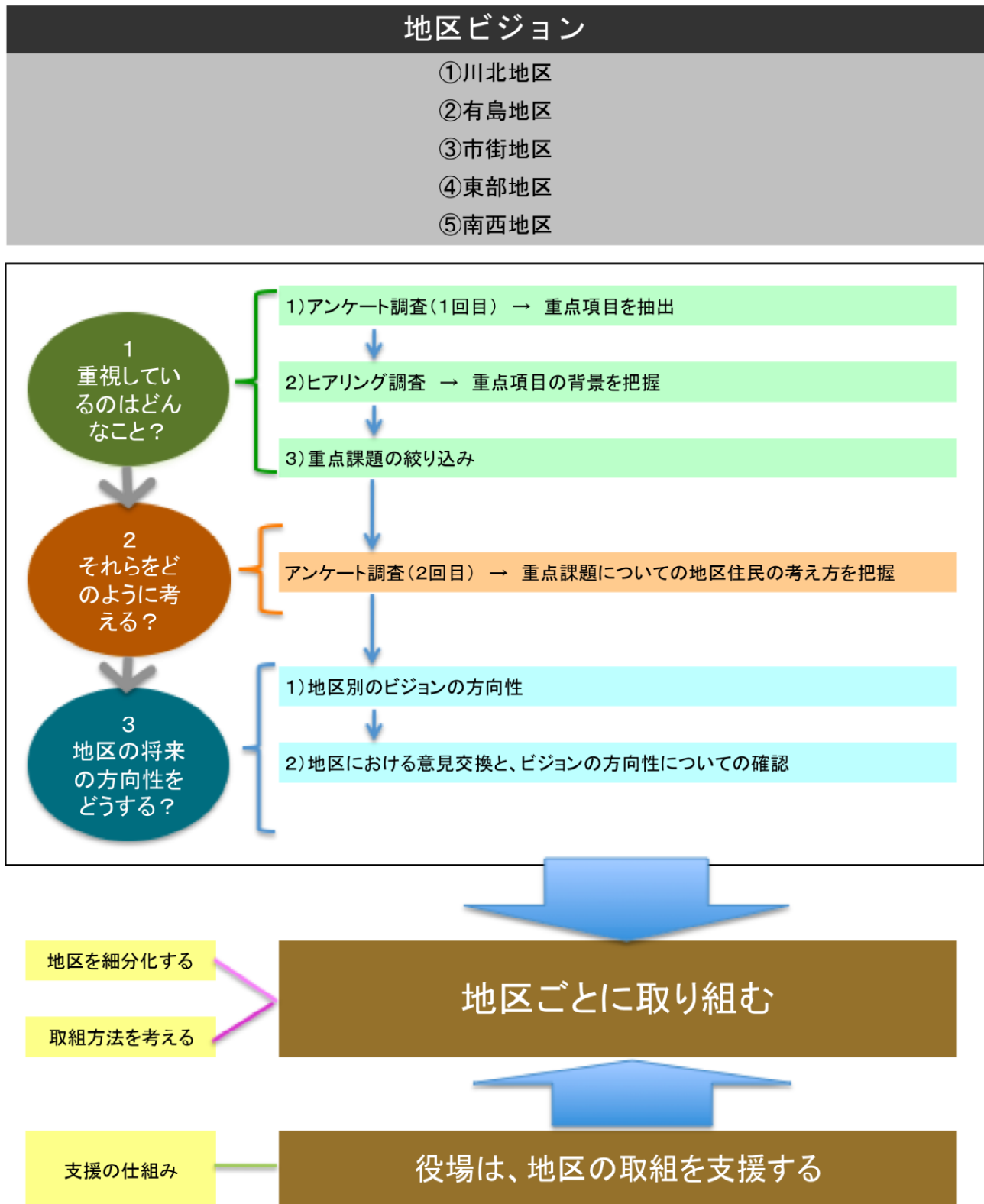


IV. 地区ビジョン～地区別構想



4：地区ビジョン（地区別構想）

地区ビジョンは、次の考え方によって構成されます。



4-1. 川北地区（ニセコ、曽我）

川北地区 将来の方向性

●自然環境と産業（農業・観光）の調和を目指す

川北地区は、農業と観光が共存する地区です。産業を支えるためには自然環境を大切に守り、農業と観光リゾートをともに発展させることが必要です。そこから新しいビジネスや生活スタイルをつくりだし、豊かになることを将来イメージとしています。

- ①農業においても、リゾート等多様なビジネスにおいても、自然環境を保全し持続的に活用する地区
- ②農業経営の新たなチャレンジに取り組む意欲的な農業地区
- ③農業者、移住者、国内外からのリゾート関連産業ビジネス従事者、リゾート客等多様な住民が地域づくり活動に取り組む地区

調査結果 1：第 1 回住民アンケート調査とヒアリング調査から

1) 川北地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。

2) 地区住民からのヒアリングにおいても、さまざまなご意見がありました。

- ・ 宿泊施設間の連携事業が初めての試みとして行われ、リゾート環境の充実に向けて地域資源が見直されている。
- ・ 高齢化が進む農業経営を改善するため、これまでのノウハウを生かし、TMR^{※P63}の推進や、農家レストランの開業等、さまざまな事業が始まっている。
- ・ 自然豊かなリゾート環境を好条件として、国内外のビジネスが起業もしくは立地する傾向が生じ、新たなコミュニティづくりに向けた模索が見られる。
- ・ 大規模リゾート開発の実情について関心を深めた住民と開発者との自主的な話し合いが始まっている。

3) アンケート結果やヒアリング結果から、川北地区の重要課題を、次のように絞り込みました。

- ①大規模リゾート開発と土地利用
- ②農地の保全とリゾート開発
- ③森林と水の保全
- ④地域活動の活性化

良好な重点課題	居住地周辺の景観	
	生活道路の整備状況	
	健康づくりの仕組み	
	高齢者の地域での見守り	
	家庭における男女共同参画	
	まちづくり基本条例の運用	
	行政事務の透明性	
	評価が低く緊急性の高い重点課題	情緒豊かで礼儀正しい子
		学習意欲・自分で考える子
幼・小・中・高校間の連携		
学校と地域の連携		
地域でいつでも学べる仕組み		
地域の学習活動リーダー		
町民のスポーツ施設		
文化遺産の発掘や保全活動		
町民の文化活動の活発度		
地域文化活動への行政支援		
森林など緑環境の保全		
土地利用		
歩いて楽しい道づくり		
ふれあいシャトルバス		

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査の結果は、次のとおりです。

① 川北地区の将来像

「自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい」が最も多い割合（52.7%）となっています。大型リゾート建設の動きが見られる中で、自然環境を大切にしたいという地区の思いが提示されたものです。

② 川北地区の農業の課題

「高齢化した農家の農地の引継」が最も多い割合（28.6%）となっています。後継者のいない農家の農地は町が購入して、花畑にする等、観光展開すべきとの意見もありました。

③ 川北地区の観光リゾート開発の課題

「水源地と周辺土地の買い占め」（27.5%）と「土地の買い占め」（22.0%）が多い割合となっています。森林の皆伐や甘露の水の土地が買取られたこと等に危機感を示す意見が多い。

④ そのほか（記述回答から）

ごみの不法投棄が心配、従来住民と新住民の関係がぎくしゃくしてコミュニティの運営が難しくなっている、地域ボランティア活動に参加したくても仕事が忙しくてできない等の意見があります。

調査結果 3 : 川北地区のまちづくり懇談会における意見から

- ・ 川北地区をひとくくりにすることに無理がある。①ニセコ地区（畑作）、②モイワ・アンヌプリ地区（ペンション）、③曾我地区（畑作）の各地区で、後継者の実態、規模、コミュニティのあり方が違うので、突っ込んだ議論ができない。→今後、進めながら、より細分化していくことも検討したい。（ニセコ地区）
- ・ 東山地区は、全体的に道路が狭く、大型バスや農機具等のすれ違いができないところがある。リゾートと農地がある地区の特性だが、このままでは事故が起きるのではないかと気がかりだ。（曾我地区）
- ・ 宿泊体制について、ペンション等が連携して観光客に対応するよう取り組まないといけない。（曾我地区）

調査結果 4 : 第一次見直し（平成 27 年度）アンケート地区別分析結果から

1) 評価が特に低下している分野

- ・ 住宅や住宅地の分野で、全体としての他、特に、生活道路の除排雪についても評価が低下している。

- ・ 交通網の分野で、全体としての他、特に、歩道の安全生についての評価が低下している
- ・ 高齢者福祉の分野で、全ての項目で、評価が低下している。
- ・ 子育ての分野で、特に、職場と家庭における子育て環境の評価が低下している
- ・ 住民参加の分野で、全体としての他、特に、住民参加の仕組みについての評価が低下している
- ・ 行財政の分野で、多くの項目、住民への柔軟な対応、行政の透明さ、財政の持続可能な運営、住民の負担と受益のバランスについての評価が低下している

2) 評価が特に上昇している分野

- ・ 子供の教育の分野で、情緒豊かで礼儀正しい教育、ふるさとを愛する教育、国際化・情報化教育について評価が高まっている。
- ・ 住民の学習の分野で、学習活動のリーダー、青少年の健全について評価が高まっている
- ・ 歴史文化の分野で、ほとんどの項目で評価が高まっている
- ・ 環境の分野で、ほとんどの項目で評価が高まっている
- ・ 観光の分野で、多くの項目で評価が高まっている
- ・ 農業の分野で、全体の他、農業と他産業との連携について評価が高まっている
- ・ 連携の分野で、広域行政、国際交流について評価が高まっている



●川北地区における、今後の重点課題

川北地区は、従来の、農村エリアとしての地域特性から、国際リゾート観光地としての地域特性に大きく変化しており、その結果、従来のコミュニティ構成員の高齢化と、リゾート観光地を労働市場として移住してきた現役世代による新しいコミュニティが混在しているエリアとなっている。その混住化がもたらす過渡期的現象が、アンケートの結果にあらわれている。

- ① 高齢者福祉の全面的な評価の低下は、川北地区が、他地区と比べても著しい。
従来コミュニティの機能低下が想定されるので、地域住民を中心として、新たな時代に向けてのコミュニティのあり方を検討し、その過程の中で、新旧のコミュニティの融合的共存に向けた具体的な取り組みを行う必要がある。
- ② リゾート観光地で就業する若い世代を取巻く、職場と家庭の子育て環境は、ニセコ特有の諸条件と若い世代のライフスタイルによって構成されている。今日のニセコ発展の原動力ともなっている、このリゾート観光産業を取巻く就業者世代にとっての課題解決を、進めていくことが望ましい。

4-2. 有島地区（有島）

有島地区 将来の方向性

●相互扶助のまちづくりの実践を進める

有島地区は、有島武郎の相互扶助の精神を根付かせた地区です。有島武郎の思想を現代に伝える、歴史ある地区として、「相互扶助のまちづくり」を実践的に進めるモデル地域となることを将来イメージとしています。

- ①農業の新たな経営手法により、有島地区の原風景である農村景観を守る地区
- ②有島武郎の芸術と有島農場の歴史文化を継承し、新たに創造しつづける地区
- ③農村景観と歴史的景観を包み込む、自然環境と自然生態系を守り育てる地区

調査結果 1：第1回住民アンケート調査とヒアリング調査から

1) 有島地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。

2) 地区住民からのヒアリングにおいても、さまざまなご意見がありました。

- ・ 地区の農業者は高齢化が進み後継者もいないので、このままでは地区の農業も農村景観もなくなる。個人の努力を超えた状況なので、行政等が介入して大きな方向性を出してほしい。
- ・ 有島農場の歴史や有島記念館の存在が、地区の将来像にどのように関わるのか、なかなか見えてこないなので、行政と地区住民が連携してあるべき姿を模索すべきだ。
- ・ 地区の新住民も有島謝恩会に参加し、地区活動の維持に貢献しているので、新たなコミュニティ形成の可能性が見える。
- ・ 有島地区の歴史や文化性を地域資源として、新たな体験参加型の文化交流イベントや地域づくり事業を興すべき。
- ・ 町民や周辺で関心を持っている人たちに呼びかけて、有島武郎関連やその他の歴史芸術文化に関する住民活動を始めたい。
- ・ 有島武郎の「相互扶助」の理念は、障がいのある人やそ

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	保育所・子育て支援センター等
	学習意欲・自分で考える子
	町民のスポーツ施設
評価が低く緊急性の高い重点課題	文化遺産の発掘や保全活動
	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
	高齢者の外出と社会参加支援
	国際化・情報化に対応する子
	町民の文化活動の施設
	河川環境の保全
	高速道路や新幹線の誘致
	段差などのバリアフリー
	イベントによる観光需要掘起し
	観光客への住民のおもてなし
	クリーン農業の展開
	行政情報の質の向上
	役場職員の能力向上
	学校と地域の連携
	地域でいつでも学べる仕組み
	地域文化活動への行政支援
土地利用	
歩いて楽しい道づくり	
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
大規模リゾート観光開発	
農地の保全	
観光や農業などとの連携	
市街地の商店街	
情報共有の仕組み	
住民サービスと財政のバランス	

の家族が支えあって自立して生きることを目指す上で、深い共感を覚える理念である。

- ・ カシュンベツ川に残る河跡を活用して、住民によるイトウの生息地づくり活動を進める。

3) アンケート結果から絞り込んだ有島地区の重要課題を、次のとおりとしました。

- ①有島農場の歴史文化遺産の保全
- ②農地と農村景観の保全を図る土地利用
- ③地域活動の担い手
- ④有島武郎の文化の継承
- ⑤河川環境の保全

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査の結果は次のとおりです。

① 有島地区の将来像

「自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい」(33.3%) と「有島武郎や有島農場の芸術や歴史文化を伝える地域の姿を最も大切にしたい」(26.7%) が多い割合となっており、「農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい」(13.3%) も有島地区の農業者の比率より多い割合となっています。これは、自然と歴史文化と農業を一体の地域特性として大切にしたいという意識の現れと考えられます。

② 有島地区の農業の課題

「農業後継者がいなくなった後はどうなるのか」(30.0%) と「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるのか」(30.0%) が同率で、強く懸念されています。

③ 有島地区の歴史文化の保全に向けた課題

「有島謝恩会の高齢化に伴い、有島地区の文化遺産を継承する地域共同体が維持されるか」(30.0%) が最も多く、「相互扶助等有島武郎の思想や文学への関心が継承されるかどうか」(20.0%) が次いで多くなっています。

④ その他 (記述回答から)

現在のような農村景観と自然そして適度の集落の形成が良い、農業者のノウハウを継承するため、行政が方策を示し、農業者が選べる仕組みにすべき、有島地区は町全体の柱となる地域資源なので、町の関与によって有島地区の歴史資産を継承すべきだ、有島武郎の農場として農業、観光、文化、福祉が一体となった落ち着いたバランスの良い地域形成をすべき等の意見があります。

調査結果 3 : 有島地区のまちづくり懇談会における意見から

- ・ 給食等で食材の地域内自給を高められないか。食材を雪氷倉庫等に備蓄できれば良い。
- ・ 共同墓地の保全について検討してはどうか。

調査結果 4 : 第一次見直し（平成 27 年度）アンケート地区別分析結果から

1) 評価が特に低下している分野

- ・ 行財政の分野で、全体としての他、持続的な財政運営、住民負担と受益のバランスで、評価が低下している。

2) 評価が特に上昇している分野

- ・ 住民の学習の分野で、全体としての他、青少年の健全な育成について評価が高まっている。
- ・ 環境の分野で、全体としての他、ほとんどの項目で評価が高まっている。
- ・ 住宅や住宅地の分野で、居住地の景観、生活道路の除排雪について、評価が高まっている。
- ・ 交通網の分野で、全体としての他、高速交通体系について、評価が高まっている。
- ・ 観光の分野で、多くの項目で、評価が高まっている。
- ・ 情報共有の分野で、全ての項目で、評価が高まっている。（市街地区と近藤地区も同じ）



●有島地区における、今後の重点課題

有島地区で、地域特性に関連する重要な課題は、特に指摘されていない。行財政についての評価の低さは、有島地区に限らない、全町的な傾向である。

4-3. 市街地区（市街地、中央、本通）

市街地区 将来の方向性

●市街地としてふさわしい、機能あるまちづくりを進める

市街地区は、住宅や商店、公共施設が集中している地区です。町の中心部としての機能を十分に果たし、町全体にとって利用しやすい公共的施設、町民やリゾート客等を対象とした商店街として、賑わいのある中心市街地とすることが将来イメージです。

- ① 駅前、綺羅街道、道道ニセコ停車場線それぞれの空間資源や個性的な施設群を互いに結び合わせて、中心市街地としての都市機能が一層充実する地区
- ② 国内外からのリゾート客や関連産業と連携して、小規模でも付加価値の高い商業等が集積する地区
- ③ 教育文化施設や商業施設等の利便性に富み、温かい人間関係に基づくコミュニティが息づく快適な生活空間を有する地区

調査結果 1 : 第 1 回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 市街地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、さまざまなご意見がありました。
 - ・ あそぶっくは、ニセコ町の文化拠点施設となる可能性を有しているが、図書館機能の面でも、文化活動の面でも一層の工夫が必要だ。
 - ・ 綺羅乃湯や駅前倉庫群を中心とする駅前空間の将来像を描くことは、ニセコ町の市街地全体に大きな影響を与える重要なプロジェクトである。
 - ・ 役場前の道道ニセコ停車場線の整備事業は、市街地商店街の今後の発展にとって重要な課題であり、沿道住民や関係者の合意形成をしっかりとしながら進めるべきだ
 - ・ 市街地商店街の多くの商店に、リゾート客という大きな商機を積極的に活用しようという気概が感じられない。個店を結ぶ調整役を市街地全体で抱え、ネットワークと

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	文化遺産の発掘や保全活動
評価が低く緊急性の高い重点課題	有島記念館の展示やイベント
	排水処理
	通信環境の整備
	学習意欲・自分で考える子
	高齢者の地域での見守り
	歩道などの安全性
	子育てできる職場環境
	担い手や後継者の育成
	幼・小・中・高校間の連携
	森林など緑環境の保全
	農業等他産業と観光の連携
	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
	高齢者の外出と社会参加支援
	高速道路や新幹線の誘致
	段差などのバリアフリー
観光客への住民のおもてなし	
学校と地域の連携	
地域でいつでも学べる仕組み	
地域文化活動への行政支援	
土地利用	
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
大規模リゾート観光開発	
農地の保全	
市街地の商店街	
住民サービスと財政のバランス	

して商店街を活性化する仕組みが必要だ。

- ・ 幼児センター、ニセコ高校、インターナショナルスクール等個性的な教育施設をつなぎ、新しい町民センターやあそぶつく、有島記念館等も加えた複合的な教育学習環境づくりを進めることが、次世代のニセコ町民を育てるだろう。
- ・ 市街地は都市空間としての秩序だった集積性が必要であるにも関わらず、リゾートからの余波を受け無秩序に開発される危険性があるので、都市計画の導入の是非について検討を始めるべきだ。

3) アンケート結果から絞り込んだ市街地区の重要課題を、次のとおりとしました。

- ① 市街地商店街の活性化
- ② 市街地における土地利用
- ③ 相互扶助による高齢者の見守りと防災
- ④ 住民活動の活性化

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査をした結果は次のとおりです。

① 市街地区の将来像

「教育文化施設や福祉施設、行政施設等の公共施設が集積している地域の姿」(33.3%) と「綺羅街道等商業施設が集積している地域の姿」(27.6%) が近い割合で、中心市街地として都市機能の充実を目指す声が多くなっています。

② 市街地区の商業集客機能の活性化についての優先課題

「JR ニセコ駅前空間の再開発」(30.7%)、「綺羅街道の再活性化」(28.5%)、「役場前の停車場線の再開発」(22.4%) が僅差で並んでおり、市街地全体を見通した構想の必要性が示唆されています。

③ 市街地区の住宅政策

市街地の住宅政策については、「民間が建てた住宅を公共が借り上げる」(30.7%)、「公営住宅の建設と供給」(27.6%)、「民間による住宅供給システム」(25.4%) がほぼ同じ割合となっていて、明確な方向性が見えていません。

④ 活用したい市街地の地域資源

「駅前倉庫群」(32%)、「綺羅街道」(30.7%) を活用すべきという意見が多い状況です。

調査結果 3 : 市街地区のまちづくり懇談会における意見から

- 1) 春から夏にかけて、家に物売りに来る人が多くなり、高齢者は不安を感じて鍵をかけて出てこない。地域のつながりが薄れ、ますます交流が少なくなった独居高齢者がかなり増えている。だいたいの様子や雰囲気はわかるので時々声をかけるようにしている。親戚の方が時々見守りに訪れたりヘルパーさんが回ったりしているが、

高齢者の引きこもり傾向は改善されていない。孤独死が心配なので、緊急通報システムのようなものがあると良い。(本通地区)

- 2) 高齢者の中には、買い物のために倶知安に行く人もいるが、辛いという声が多い。バスにも乗れず介護が必要な人の買い物支援をどうしたらよいか。市街地でも、高齢者の中には、病院や買い物が利用目的でデマンドバスへのニーズがある。(本通地区)
- 3) 中央地区駅前倉庫群の計画について、民間の活力を利用し、景観や川等を生かし、子どもたちが遊べる緑地を作ることも視野に入れ、いろいろな可能性を考える必要がある。(中央地区)
- 4) 有休農地を利用し、グリーンツーリズム(貸し畑等)の拡大を図るべき(中央地区)
- 5) 社会教育について、自分でテーマをつくり研究し学習するようなシステムが必要だ(中央地区)
- 6) 地区の民生委員は、高齢者のお宅ごとにカルテを袋の中に入れて冷蔵庫に掛ける等の仕組みを検討している(中央地区)
- 7) 高齢者の見守り等については、声かけ等は特にしていないが、普段の付き合いの中で気を使っている(中央地区)

調査結果4：第一次見直し(平成27年度)アンケート地区別分析結果から

1) 評価が特に低下している分野

- ・住宅や住宅地の分野は、全体として評価が低下しているものの、項目で低下しているものはない。具体的な原因のない評価、ということに見えるが、その背景は何か、別の角度や手法による検討が求められる。

2) 評価が特に上昇している分野

- ・子供の教育の分野で、ふるさとを愛する教育、国際化・情報化教育について、評価が高まっている。
- ・歴史文化の分野で、文化活動の施設、文化活動への行政支援について、評価が高まっている
- ・環境の分野で、ほとんどの項目で、評価が高まっている。
- ・高齢者福祉の分野で、全体としての他、高齢者の見守りなどについて、評価が高まっている
- ・観光の分野で、多くの項目について、評価が高まっている。
- ・農業の分野で、全体としての他、多くの項目について、評価が高まっている。
- ・情報共有の分野で、全ての項目で、評価が高まっている。

- ・ 連携の分野で、全ての項目で、評価が高まっている。



●市街地区における、今後の重点課題

市街地区の地域特性を反映した課題として、住宅・住宅地の評価が低下していることがあげられる。しかし、アンケートからは、その具体的な論点や原因などが浮かび上がってこない。市街地中心部で長期間続いた道路工事による通行の不自由さが影響した一時的現象なのか、表面には見えてこない要因があるのか、地域住民自身による検討が必要と思われる。

4-4. 東部地区（近藤、元町）

東部地区 将来の方向性

●農村コミュニティを発展させ、さらに絆を深める

東部地区は農村地域でありながら、近藤小学校や道の駅ビュープラザがあり、交流活動が活発な地区です。核となる施設を中心として、地域内に居住する人たちの交流を通して、絆を深めるとともに町の交流活動のモデルとなることを、将来のイメージとしています。

- ①羊蹄山麓の豊かな自然環境を生活圏とし、地域コミュニティを育む地区
- ②農業者の高齢化と後継者不足にあって、環境をブランドのキーワードとする新しい農業経営のあり方を模索する地区
- ③近藤小学校を地域コミュニティの絆に、さまざまな交流活動や地域活動、文化活動が地区を元気にする地区

調査結果 1：第1回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 東部地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、さまざまなご意見がありました。
 - ・ 地区の農業者と移住してきた新住民が近藤小学校の行事などを通じて施設をともに利用することによって、コミュニティの活性化をもたらした
 - ・ 地区の農業者は、規模拡大に限界を感じており、むしろ環境をキーワードとする農産物のブランド化に向けて工夫する傾向が多くなっている
- 3) アンケート結果から絞り込んだ東部地区の重要課題を、次のとおりとしました。
 - ① 地域と学校の連携
 - ② 高齢者の見守りと防災
 - ③ 森林等緑環境の保全
 - ④ 公共交通機関の充実
 - ⑤ 農地と農村景観の保全と土地利用

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	保育所・子育て支援センター等
	生活道路の整備状況
	有島武郎の歴史文化等継承
	ニセコらしい農村景観
	歩道などの安全性
	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
評価が低く緊急性の高い重点課題	町民の文化活動の活発度
	町の財政の健全化
	クリーン農業の展開
	行政情報の質の向上
	観光や農業などとの連携
	学習意欲・自分で考える子
	高齢者の地域での見守り
	子育てできる職場環境
	幼・小・中・高校間の連携
	森林など緑環境の保全
	高速道路や新幹線の誘致
	学校と地域の連携
	地域でいつでも学べる仕組み
	地域文化活動への行政支援
	土地利用
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
農地の保全	
市街地の商店街	
住民サービスと財政のバランス	

⑥ 有島武郎の文化の継承

⑦ 地域活動の活性化

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査結果は次のとおりです。

① 東部地区の将来像

「自然環境の豊かな地域の姿」(33.9%)と「地域と学校等住民が交流できる場としての地域の姿」(32.1%)がほぼ同じ割合となっており、自然環境に憧れて移り住んだ住民と自然の恵みによる農業を営んでいる住民が、交流を深めてともに地域活動を楽しむ現状の様子が将来像に投影されているようです。

② 東部地区の農業の課題

「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるかどうか」(25.0%)、「農家の後継者不足が解消されるかどうか」(19.6%)が多い割合となっていますが、「わからない」が33.9%にも及び、最も多い割合となっています。農村地帯としては他の地区と同様の課題ですが、非農家の住民の割合が多いことの反映と思われます。

③ 活用したい近藤地区の地域資源

「山や森の自然景観」(26.8%)、「地域住民の団結力」(17.9%)が上位となっているのは、「近藤地区の将来像」と同様の傾向です。近藤地区の個性が明確に表現された結果といえます。

調査結果 3 : 東部地区のまちづくり懇談会における意見から

- ・ 東部地区のスクールバスのバス停の位置が、冬非常に危ない。バス停の変更あるいは歩道の早期除雪等対応策はないか。バス循環のルートを逆にしてはどうか。(近藤地区)
- ・ 羊蹄近藤連絡線の改修工事の件で、沿道 4 戸への説明がなかったことについて、今回は住民意見を聞くための説明会であり、意向を聞いてから図面を作成する予定であった。地域の意向で変更は可能なので、地域で話し合っ方針を出してほしい。(近藤地区)
- ・ 市街地全体として、役場庁舎や公共施設の場所がバラバラでランドデザインができていないことについて、今後に向けた長期的なまちづくり課題として検討すべきだ。町民一人一人も、大きな視野で考える必要がある。→ 今後はしっかりとしたビジョンを作っていきたい。総合計画を含め、来年度に全体的な絵を描きたい。(近藤地区)
- ・ コミュニティセンターの隣にある元町神社の西側に、地区の人が町に寄付した約 4,000 m²の土地がある。せっかく地域のためにと寄付された土地なので、町の方で何に利用できるか考えてほしい。地域として具体的なリクエストは無い。→ 地区で考え実現していくテーマとして今後取り上げてはどうか(元町地区)

調査結果 4 : 第一次見直し（平成 27 年度）アンケート地区別分析結果から

1) 評価が特に低下している分野

- ・ 住宅・住宅地の分野で、全体としての評価が、低下している。
- ・ 交通網の分野で、ほとんどの項目で評価が低下している。
- ・ 高齢者福祉の分野で、高齢者の社会参加の機会、高齢者の防災・防犯について、評価が低下している。
- ・ 商工業の分野で、全体としての他、ビュープラザについて、評価が低下している。
- ・ 行財政の分野で、多くの項目で、評価が低下している。

2) 評価が特に上昇している分野

- ・ 子供の教育の分野で、多くの項目で、評価が高まっている。
- ・ 環境の分野で、全体としての他、ほとんどの項目で、評価が高まっている。
- ・ 観光の分野で、観光と他産業の連携、観光需要の掘り起こし、住民のおもてなしについて、評価が高まっている
- ・ 農業の分野で、担い手や後継者、農村景観について、評価が高まっている。
- ・ 情報共有の分野で、全ての項目で、評価が高まっている。
- ・ 住民参加の分野で、ほとんどの項目で、評価が高まっている。
- ・ 連携の分野で、ほとんどの項目で、評価が高まっている。



●東部地区における、今後の重点課題

東部地区の地域特性を反映して、交通網に関する評価の低下が、高齢者の社会参加機会の低下や防災防犯への不安と関連している可能性がある。この観点については、地域住民の具体的な意識の把握などを通じて、背景分析を検討する必要がある。

4-5. 南西地区（里見、宮田、福井、西富）

南西地区 将来の方向性

●自然環境と調和した、農村コミュニティの里づくりを進める

南西地区は、農業が主体の自然豊かな、落ち着いた地区です。豊かな自然環境と風光明媚な農村景観の中で、地域にしっかり根付いたコミュニティを基礎に、力強い、持続力のある農業地域となることを将来イメージとしています。

- ①高齢化と後継者問題を課題の両輪として、農業地帯として持続できるあり方を探る地区
- ②山や森等の自然環境は、環境をキーワードとするニセコ町の農業のブランド化にとって欠かせない条件であり、農業と一体的な保存のあり方を探る地区
- ③温かい人間関係に支えられたコミュニティが、地区住民の子育てや高齢者の生活を見守る地区

豊かな自然環境と風光明媚

調査結果 1：第1回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 南西地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、さまざまなご意見がありました。
 - ・ 高齢者世帯は外出や交流の機会が少なくなって孤立する傾向が強いので、時折訪問し見守りの気持ちを伝えることが大事だ。あらたまった訪問より、気軽にお互いが信頼関係を築くようなネットワーキングが必要だ。
 - ・ 農業経営の大規模化は、農家の力から言って既に限界に来ている。後継者のいない農家が多いので、経営者の高齢化が今以上に進むと、個人農家としては先が見えなくなる。法人化が理想だが、しかし、それも非常に難しいことだ。
 - ・ 森林組合の組合員の多くは山持ちの農家だが、高齢化や後継者難等で、森を育てる余裕がないのが実情。若い人たちがボランティアで参加してくれると有難い。

良好な重点課題	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	歩道などの安全性
	周辺の生活道路の除排雪
	排水処理
	通信環境の整備
	二酸化炭素削減の取組
	道の駅のショッピングエリア
	情緒豊かで礼儀正しい子
	住民に対する行政の対応
評価が低く緊急性の高い重点課題	住民参加のしやすさ
	高齢者の外出と社会参加支援
	文化遺産の発掘や保全活動
	子育ての悩みの相談の仕組み
	地域で青少年の健全育成
	地元消費者や他産業と連携
	役場職員の能力向上
	町民の文化活動の活発度
	町の財政の健全化
	クリーン農業の展開
評価が低く緊急性の高い重点課題	行政情報の質の向上
	高齢者の地域での見守り
	子育てできる職場環境
	幼・小・中・高校間の連携
	森林など緑環境の保全
	高速道路や新幹線の誘致
	地域でいつでも学べる仕組み
	土地利用
	ふれあいシャトルバス
	高齢者の防犯・防災
評価が低く緊急性の高い重点課題	農地の保全
	市街地の商店街
	住民サービスと財政のバランス
	農業等他産業と観光の連携
	大規模リゾート観光開発

3) アンケート結果から絞り込んだ南西地区の重要課題を、次のとおりとしました。

- ① 道の駅や直売所の活性化
- ② 高齢者の外出支援
- ③ 子育ての悩みの解消
- ④ 地域活動の活性化
- ⑤ 森林等緑環境の保全と土地利用
- ⑥ 農地保全と土地利用
- ⑦ 農業と観光の連携

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査をした結果は、次のとおりです。

① 南西地区の将来像

「農業地域としての地域の姿」(46.6%)と「自然環境の豊かな地域の姿」(37.9%)が多く、農業地帯と自然環境の持続に将来像を託していることが伺えます。

② 南西地区の農業の課題

「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるかどうか」(29.3%)と「農家の後継者不足が解消されるかどうか」(27.6%)がほぼ同じ割合で課題の中心となっています。これらの課題は他地区の農業課題とほぼ同様であり、ニセコ町の農業の問題として今後の方向性に対し大きな政策的決断が求められているともいえます。

③ 活用したい南西地区の地域資源

「農村景観」(41.4%)と「山や森の自然景観」(34.5%)が多く、①の回答状況と同じく、農業と自然保全による将来への可能性を示しています。

調査結果 3 : 南西地区のまちづくり懇談会における意見から

- 1) 地域活動として、町に予算が不足している場合は、予算が無いなりの工夫があるはず。地域住民に頼んで協力してもらうこともこれからは必要だ。何でも町の予算で業者に頼むのではなく、みんなで協力できるところを見つける努力も大事だ。
(里見地区)
- 2) 都市住民との交流について都会の子どもを受け入れるのは安全面で難しい。(宮田地区)
- 3) 除雪が業者委託方式になってから、町直轄方式より不備が目立つ。しかし、業者も悩みながら試行している面もある。住民と業者と行政が情報交換してより良い方法を探る等の手法があっても良い。(福井地区)
- 4) 南西部のビジョンとして、高齢者の外出支援、子育ての悩みの解消、地域活動の

活性化等をきちんと追加すべきだ。(福井地区)

- 5) 地域活動の活性化については、地区ごとに異なる要因や背景等を探っておくことが必要だ。(福井地区)

調査結果 4 : 第一次見直し (平成 27 年度) アンケート地区別分析結果から

1) 評価が特に低下している分野

- ・ 子供の教育の分野で、多くの項目で、評価が低下している。
- ・ 歴史文化の分野で、全体としての他、文化活動の活発さ、文化活動への行政支援について、評価が低下している。
- ・ 住宅、住宅地の分野で、ほとんどの項目で、評価が低下している。
- ・ 交通網の分野で、ほとんどの項目で、評価が低下している。
- ・ 高齢者福祉の分野で、多くの項目で、評価が低下している。
- ・ 商工業の分野で、全体としての他、市街地の商店街の評価が低下している。
- ・ 住民参加の分野で、全ての項目で、評価が低下している。
- ・ 行財政の分野で、ほとんどの項目で、評価が低下している。

2) 評価が特に上昇している分野

- ・ 住民の学習の分野で、全体としての他、青少年の健全な育成が、評価が高まっている。
- ・ 環境の分野で、河川環境、緑環境について、評価が高まっている。



●南西地区における、今後の重点課題

南西地区の地域特性が色濃く反映されたアンケート結果であり、この4年間における住民意識の変化の背景を吟味することの重要性を、明瞭に示唆している。

住民による満足度評価が大きく低下した分野は、他地区と比べて非常に多い。具体的には子供の教育、歴史文化、住宅や住宅地、交通網、高齢者福祉、商工業、住民参加、行財政の分野である。また、「まちづくり基本条例」の運用についての評価が、唯一、大きく低下している地区でもある。これらの傾向は、顕著である。

逆に、評価が大きく向上した分野は、住民の学習、環境だけであり、他地区と比べて、極めて少ない点で特徴的である。

これらのことから、地区別のまちづくりのなかでも、とりわけ南西地区においては、課題が大きく、その解決は、全町的課題と言えるほど大きな問題である。

今後、さらに具体的に、現状と課題の把握に努める必要があり、総合計画見直しにおける大きな論点であり、政策課題であると言える。

4-6. 地区ビジョンの見直しにおける今後の取り組み方向

特定の地区において、多様な分野での満足度評価の低下が見られる

4年に1度の見直しにあたって、まちづくりの成果に対する満足度評価を、全町的な視野に加えて、地区別にも分析した。また、住民アンケートの地区別クロス分析や各地域でのまちづくり懇談会での住民意見、そして、庁内の担当職員による総合的な分析を行っている。その結果、特に、南西地区における満足度評価の落ち込みが、様々な分野で顕著であることが、大きな問題として浮かび上がってきた。また、他地区においても、類似の課題が見えてきた。

様々な分野での現象は、二つの主要な分野における満足度の低下に原因があるものと考えられる。それは、次の2つの分野である。

(1) 情報共有における満足度評価の低下

- 有島、市街、近藤地区では評価が顕著に向上しているが、南西、川北地区では低下している
- 背景：通信環境の地域特性の他、情報共有の積み重ねが少なくなっているしわ寄せもある

(2) 交通網（特にデマンドバス）における満足度評価の落ち込み

- 全町的にも決して評価は高くないが、南西地区では極めて低く、次いで近藤地区も低い
- 背景：バスの台数不足のしわ寄せが、南西地区に偏っているものと考えられる

全町一律の情報共有政策ではあるが、地区へ伝わる際の評価の面で、様々な地域差が生じている。その背景として、一部地域で通信（ICT）環境が不十分であったり、クチコミ系の情報を的確に伝える地域のキーマンの存在に変化があるなどの変化が、想定される。

また、デマンドバスは、当初からの少ない台数運行に、オペレーションの不備も加わって、特定の地区に大きなしわ寄せを余儀なくしているものと考えられる。

この二つの分野に影響される形で、次の分野でも、満足度評価が大きく落ち込んでいる。この結果、個別分野での不満もさることながら、地区住民の意識がまちづくりに対して後ろ向きになることも懸念される。しかし、相対的な満足度評価を見ると、まだそこまで悪化していないようなので、これから改善に向けた期待感を強く表明している、と受けとめることができる。

① 学校教育

- 子供の教育理念についての満足度評価が、南西地区だけ顕著に低い
- 背景：学校施設の集積と連携が、空間的、心理的に遠く隔たって感じられることが影響

② 歴史文化

- 文化活動を行う施設について、南西地区だけ満足度の低下傾向が見られる

○ 背景：町民センターなど文化活動施設までの、デマンドバスの運行状況への不満

③ 住宅・住宅地

● ほぼ全ての項目にわたり、南西地区での、住宅住宅地の満足度評価が大きく低下している

○ 背景：民間住宅の建設が進んでいないことなどが、低い評価に大きな影響を与えている。

④ 防災・防犯

● 多くの項目に亘って、南西地区の防災・防犯に関する満足度評価が、かなり低い

○ 背景：南西地区の高齢者にとっての防災避難行動は、バス等に依存するが、その不安。

⑤ 高齢者福祉

● 南西、近藤、川北地区において、高齢者福祉の多くの項目で、満足度評価の低下が著しい

○ 背景：高齢化率の高い地区であり、デマンドバスによる高齢者福祉施設利用の困難さ

⑥ 商工業

● 南西地区と近藤地区では、商業全般に関する満足度評価が、際立って低い

○ 背景：商店までのデマンドバスの利用不便さが、影響していると思われる

⑦ 住民参加

● 南西地区では、住民参加の全ての項目において、満足度評価が際立って低下した

○ 背景：通信環境や交通機関の不便さなどにより、住民参加の機会を活用できていない

⑧ 行財政

● 南西、川北地区では、行財政のほぼ全ての項目において、満足度評価が顕著に低下した

○ 背景：特に財政出動事業が地域的な偏りを感じさせることが、地域間の差異の背景か

情報共有の不十分さが、まちづくりに対する住民理解を困難にしている

情報共有における満足度の低下は、前述のような、地区特性による相乗効果を受けて、特に南西地区で、より一層満足度の低下を招いている一方で、全町的にも、特定の分野にマイナスの影響を及ぼしている。それは、主に、次の3つの分野である。

① 農業、林業

● 農地の保全に関する満足度評価は、概ね向上しているが、評価水準は依然低いままである

○ 背景：特定の産業分野の情報は町民全般には理解浸透しにくい上に、特に土地利用については、情報が不足しており、マスコミなどの外部情報に左右される傾向が強い

② 住民参加

● 住民参加の全項目において、近藤、有島地区以外の全町で、満足度評価は高まっていない

○ 背景：情報共有よりスピードが優先される傾向があり、住民参加の熟度が低下している

③ 行財政

● 行財政に関連する全ての項目で、全町的に大幅な低下が見られる

○ 背景：公共施設への投資に関する住民の不安を取り除く情報共有が、不足している

●地区ビジョンの平成27年度第一次見直しにおける、論点と課題の構造

分野	論点(※詳細は、P145～P168参照)	課題の構造(P116～P117)
1 学校教育	1 子供の教育理念に対する評価が、近藤地区で高く、南西地区では低く、顕著な差がある	→ 派生課題①
	2 国際化・情報化教育が進展し、全町的に評価が高い	
	3 学校教育における教育機関間の連携に対する評価が、南西地区で顕著に低下している	
2 社会教育	4 各地域において、青少年の健全な成長の評価が向上している	
3 歴史文化	5 川北地区の高い評価の背景は、有島記念館の展示企画への関心が町内外に広がっているからか？	→ 派生課題②
	6 文化活動施設の地域間格差が拡大し、南西地区の評価低下は施設への交通の便の悪さからか	
4 環境	7 公共下水道や合併処理浄化槽の普及拡大に関する全町的な評価の高まりと、南西地区での評価の低下現象	
	8 河川環境、緑環境、土地利用に対する評価は全町的に高まっている	
	9 準都市計画区域のエリアについての危機感強い	
5 エネルギー	10 二酸化炭素削減の取組に対して、全町的に危機感が高まっている	
6 住宅・住宅地	11 南西地区で居住環境について全般に評価が低いのは、何故か？	→ 派生課題③
	12 生活道路の除排雪における地域間格差は拡大したのか、縮小したのか？	
	13 住宅や住宅地全体についての評価が、全町的に低下している	
7 交通網	14 交通網の評価は、地域間格差が顕著に見られる(デマンドバスに対する評価が南西地区で大きく低下)	主要課題②
	15 交通網全体については、川北地区の評価低下も顕著	
8 防災・防犯	※ 南西地区の評価が、他地区より低いのは、高齢化や公共交通機関などの点で不安要因が多いからか	→ 派生課題④
9 医療・健康	16 健康づくりの仕組みについて地区によって評価傾向が異なるのは、交通や情報のアクセスによるものか	
10 高齢者福祉	17 川北地区においては、高齢者福祉の評価の低下が著しい	→ 派生課題⑤
	18 川北地区に次いで、南西地区や近藤地区においても、高齢者福祉の評価の低下傾向が強い	
11 子育て支援	19 川北地区における評価の低下が顕著だが、子育て支援制度が農業や観光の世帯とミスマッチなのは	
12 障がい者福祉		
13 観光	20 他産業と連携する観光についての評価が、全町的に高まっている	
	21 観光客に対する住民のおもてなしと大規模リゾート観光開発に関する評価が、全町的に高まっている	
14 農業	22 農地の保全状態についての町民の不安は外資による購入への不安と思われるが、概ね和らいできている	
15 林業		
16 商工業	23 商工業に対する評価の地域偏在(南西地区や近藤地区での低下が顕著)	→ 派生課題⑥
17 情報共有	24 情報共有の評価が、地域により偏りが見られる(南西地区での低下が大きい)	主要課題①
18 住民参加	25 住民参加に関する評価の地域格差(南西地区、川北地区で大きく低下)	→ 派生課題⑦
19 行財政	26 行財政に関する評価の全町的な低下	→ 派生課題⑧
20 連携	27 連携を重視する傾向が、市街地を中心に全町的な傾向となった	
21 基本条例	28 まちづくり基本条例の運用について、南西地区で評価が低下している	→ 派生課題⑨

第1次見直しに基づく地区ビジョンの今後の方向性

地区ビジョンの平成27年度第一次見直しにおける主要な論点は、117～118ページの箇条書き、及び、119ページの一覧表に示したように、2つの主要な論点（主要課題①～②）と、この主要課題から派生したと思われる9つの論点（派生課題①～⑨）により、構成されます。

ここには、特定の地区（南西地区など）に課題が偏って集中し、いわば、特定の地区問題が大きな課題、論点として浮かび上がっている構図が、みられます。

総合計画における全町的課題と、地区別の差異が顕著に見られる地区的課題を、どのような視野のもとで、どのような関係の諸課題として捉えたら良いのでしょうか。

ここでは、地区住民の主体的な地区ビジョンへの取り組みを前提として、その住民自治としての取り組みに対して、町がどのような支援を行ったら良いか、また、課題解決に向けて、町が主体的に行うべき取り組みは何かについて、住民自治支援の観点から、関わる方策について段階を追って検討します。

（1）地区が抱える個別課題を把握し、背景分析を行うことに対する、町の関わり

第一次見直し時のアンケート調査等によって明らかになった特定の地区課題について、地区住民と町が協力し合い、その実態調査や背景分析などを行います。2つの主要課題を中心に、9つの派生課題を一体的に検討します。

この段階で、地区的課題が、全町的なまちづくりの推進を阻害しているという実態が明らかになるとともに全町的問題の可視化された領域として、その構造が明らかになるでしょう。

（2）地区の特定の個別課題の解決に向けた、町の政策的な関わり

2つの主要課題と9つの派生課題は、地域だけでは解決が困難なものが多いことから、町が政策的事業として主体的に関わる必要があります。いわば、全町的視点から地区的課題の解決に臨む手法が求められます。

この段階では、地区的課題が全町的課題の解決に向けた戦略的ステップであることが理解され、その解決に全町的な取り組みがなされる必要があります。

（3）地区の特定の個別課題が解決する方向に、全町的なまちづくりの発展が展望される

地区の課題解決が展望されることによって、全町的なまちづくりの阻害要因が取り除かれ、全町的なまちづくりの進展が期待されます。地区における住民自治活性化の中から、地に足の付いた形で、全町的なまちづくりのパワーアップが図られます。

このように、地区ビジョンと全町的戦略ビジョンは、どちらがより適切かという選択的課題ではなく、ニセコ町のまちづくりにおける、いわば、車の両輪としての相補的な政策的課題です。

平成27年度のアンケート調査における設問項目				ニセコ町全体の満足度の平均値			川北地区の満足度の平均値			有島地区の満足度の平均値			市街地区の満足度の平均値			近藤地区の満足度の平均値			南西地区の満足度の平均値			
	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	H22	H27	増減	
(16) 商工業に関する次の項目について																						
1 観光や農業等他分野と連携した魅力ある地元産品づくりについて	38.6	41.0	2.4	39.3	37.0	-2.4	41.7	48.3	6.6	38.0	41.6	3.6	41.1	36.3	-4.9	33.4	40.8	7.4				
2 綺羅街道など市街地の商店街について	35.5	33.4	-2.1	32.1	33.0	0.9	39.9	38.6	-1.3	33.3	32.3	-1.0	33.0	30.1	-3.0	38.0	31.5	-6.4				
3 道の駅ビュープラザのショッピングエリアについて	55.5	54.0	-1.5	57.3	55.8	-1.5	60.2	56.8	-3.5	53.5	56.3	2.9	51.4	43.4	-8.0	57.7	53.7	-4.1				
4 観光産業との経済循環について		42.3			46.0			46.3			44.1			38.9				32.2				
5 生活に必要な商品やサービスを提供する商店が揃っているかについて		20.5			18.2			20.4			22.6			21.5				17.3				
6 小規模であっても多様なビジネスの起業・創業について		32.6			32.2			35.5			34.2			29.8				33.0				
7 「商工業」全体についての満足度は?	37.7	32.3	-5.4	37.0	33.0	-4.0	38.7	36.1	-2.6	36.1	33.4	-2.7	40.0	30.8	-9.2	39.6	29.3	-10.3				
(17) 情報共有に関する次の項目について																						
1 住民の暮らしに役立つ情報共有の仕組みについて	39.7	48.9	9.2	42.5	45.8	3.2	40.3	54.2	13.9	38.6	51.7	13.1	30.4	45.3	14.9	40.4	42.1	1.7				
2 行政情報の分かりやすさや迅速性など、情報の内容の質の向上について	40.6	44.0	3.4	45.1	42.4	-2.7	39.4	50.2	10.8	39.1	46.4	7.3	32.1	40.1	8.0	43.1	38.9	-4.2				
3 光通信網など情報を活用しやすい通信環境の整備について	50.7	52.2	1.5	55.7	53.2	-2.4	46.9	53.8	6.8	50.1	57.0	6.9	42.5	47.4	4.9	50.7	42.8	-7.8				
4 「情報共有」全体についての満足度は?	41.3	46.6	5.3	42.0	45.1	3.0	39.9	50.0	10.1	41.1	50.4	9.3	32.2	43.6	11.4	43.9	39.4	-4.5				
(18) 住民参加に関する次の項目について																						
1 住民参加の仕組みが機能しているかについて	49.9	47.5	-2.4	56.2	46.6	-9.6	46.7	49.8	3.1	49.1	49.4	0.3	42.5	49.2	6.7	52.6	43.0	-9.7				
2 住民自身によるまちづくりの活動について	47.1	44.8	-2.3	49.9	47.1	-2.9	45.1	46.0	0.9	47.4	44.8	-2.6	37.9	50.5	12.6	49.0	36.6	-12.5				
3 町内会など地区を良くする活動について	47.1	48.6	1.5	49.9	47.7	-2.3	45.1	50.6	5.5	47.4	49.4	2.0	37.9	51.6	13.8	49.0	44.1	-5.0				
4 「住民参加」全体についての満足度は?	50.2	47.0	-3.2	53.1	47.3	-5.9	49.5	51.6	2.0	50.2	47.8	-2.3	45.9	48.9	3.0	52.1	41.5	-10.6				
(19) 行財政に関する次の項目について																						
1 住民に対して迅速で柔軟な対応ができる行政運営について	49.3	44.0	-5.3	52.6	45.8	-6.8	46.4	49.0	2.6	50.1	47.7	-2.4	41.1	37.9	-3.1	52.1	38.5	-13.7				
2 役場の行政事務に町民にも見えやすい透明性があるかについて	48.0	43.2	-4.8	52.9	46.4	-6.5	46.6	46.2	-0.4	48.6	47.4	-1.2	34.1	37.8	3.7	47.0	36.0	-11.0				
3 研修等により役場職員の能力が向上しているかについて	44.2	39.4	-4.8	45.0	46.7	1.7	46.1	44.3	-1.8	45.7	42.3	-3.4	40.7	34.1	-6.6	45.0	31.2	-13.9				
4 町の財政の持続可能な運営について	46.8	37.8	-9.0	47.9	38.9	-9.0	49.5	36.7	-12.8	46.3	42.5	-3.8	39.3	34.1	-5.3	46.3	33.9	-12.5				
5 町の財政状況に関する透明性や分かりやすさについて		44.2			48.8			44.8			48.7			42.3				38.5				
6 町の状況から見て、住民の負担と受益はバランスが取れているか	44.7	36.0	-8.7	48.8	36.0	-12.9	49.1	37.2	-11.9	44.5	39.9	-4.6	36.5	31.1	-5.5	39.5	32.3	-7.2				
7 「行財政」全体についての満足度は?	45.9	41.0	-4.9	46.7	44.9	-1.8	47.7	41.6	-6.1	46.3	46.1	-0.2	40.7	36.6	-4.0	42.7	38.1	-4.6				
(20) 連携によるまちづくりに関する次の項目について																						
1 ニセコを支え応援する多様な人々との連携について	51.3	53.0	1.7	49.4	53.0	3.7	45.0	51.6	6.6	44.4	54.6	10.2	43.6	53.5	10.0	49.4	53.1	3.7				
2 羊蹄山麓や後志管内などにおける、広域行政の推進について	46.2	50.6	4.4	47.5	54.8	7.3	45.4	49.3	3.9	44.3	53.0	8.6	37.3	48.0	10.7	46.9	47.4	0.5				
3 国際交流活動を支える仕組みづくりについて	45.3	55.3	10.0	46.3	62.3	16.0	50.0	53.0	3.0	46.3	57.3	11.0	42.6	50.1	7.5	48.5	57.1	8.6				
4 「連携によるまちづくり」全体についての満足度は?	47.2	50.2	3.0	51.8	52.7	0.9	55.1	47.5	-7.6	50.0	55.0	5.0	47.2	50.7	3.5	47.3	45.2	-2.1				
(21) 情報共有と住民参加による「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体について																						
「ニセコ町まちづくり基本条例」の運用全体についての満足度は?	52.7	51.9	-0.8	53.7	57.2	3.4	52.5	52.4	-0.1	51.5	54.9	3.4	47.9	49.6	1.8	57.9	45.1	-12.7				
(22) この4年間(H24～H27)のニセコ町のまちづくり全体について																						
この4年間のまちづくり全体についての満足度は?	50.5	50.8	0.4	51.8	53.3	1.5	55.1	54.5	-0.6	50.0	52.2	2.2	47.2	48.8	1.6	47.3	46.4	-0.9				